2016-10-13 ナショナリズム論―講義資料 - 前回感想―コメント等

1. 授業の最初で“ナショナリズム”に関するニュースを取り扱ってくださることで、ホロコースト時代のナショナリズムを“今、現在”のナショナリズム的考え方と照らし合わせて考察できる。“ナショナリズム”の考え方がとてもとらえやすくなりました。

   今日まで、ハンガリーでの国民投票については知らなかったのですが、ヨーロッパ全域の動向として、フランス、イギリスなど、難民問題を抱えている国同士を照らし合わせながら、“ナショナリズム”について、ヨーロッパのナショナリズムの動向を調べてみたい。

   また、テキスト“ホロコーストの歴史”を読んでみましたが、とても興味深く、貴重な内容でありました。私自身も第二次世界大戦での国同士の詳細を予習として確認しながら、講義にのぞむことによって、理解が深まるし、時系列も分かり易くなるため、講義と教科書[1]を照らし合わせながら、最後の論文のための興味分野を見つけていきたい。

2. ホロコーストにおいては、ユダヤ人がマイノリティだから、そこを標的として虐殺したけれど、ヨーロッパから見たらマイノリティなのであって、排除する理由はあまりにも理不尽である。

   もし私がマイノリティの立場になったら、もしくは決めつけられたらと恐怖心を抱き、「マイノリティ」と「マジョリティ」の思い込みや考え方の恐ろしさを実感じた。

   テキスト P.14 右側中断あたり、「ドイツ兵を買収できた」ことでゲットーを脱出できたと書かれていますが、これは、エウゲニアさんたちがお金持ちだったから[2]でしょうか？

   P.14 右側、上から 4 行目・・エウゲニアさんの一家は、「ドイツのシュルツ社で仕事を得たことで」1943 年までは生き延びれたという記述で、当時、ゲットーで職を得ることはかなり大変だと思うのですが、エウゲニアさんたちは全員技術職だったのでしょうか？[3]

---

[1] 特に、資料を注意深く読んでみてください。いろいろ疑問が出てくると同時に、「ああ、そういうことか」と発見がいくつもあると思います。史料を他人（研究者など）が解釈した結果を読むだけではなく、むしろ、直接史料を読むと、自分の頭・感性・感覚などを総合的に使うことになるので、歴史現象の豊かな認識につながります。少なくとも、私は、史料を読むと、頭が働くようになり、歴史を理解することが面白くなります。

[2] いろいろな事例を思い起こしてみて、そうだと思います。実際にどの程度の「豊かさ」、「お金持ち」だった～は、検証が必要ですね。しかし、ドイツ兵が見逃してくれるほどの「金額」を持っていたことは確実ですね。もちろん、「闇取引」です。「闇取引」は、日常の食糧調達などでも、お金持ちが何とか食料を手に入れる場合に行われたことです。、

[3] 「技術職」かどうか、何の能力で職を得たのか、調べる必要があります。しかし、同じページ左側、下から 9 行あたりに、「穀物取引によって生活していた」というので、商人としての能力・営業的能力・物の売り買いや記帳・会計処理などの専門的能力ーほかの人にはできない能力ーを持っていたということでしょう。「役に立たない」ユダヤ人は、「大食漢」とみなされ、排除・追放・抹殺の「優先」順位が高くなります。

3. ホロコースト生存者の生涯を読んで、ユダヤ人が迫害と虐殺を生き延びた経緯を知ることができた。今回の資料は、収容所に送られた人が強制労働させられ、単とか生き延びた様子を知るうえで役にたったが、その迫害された人々が、どのような階層の人々で、収容所でどのような労働をさせられていたのか[4]まではわからなかった。歴史を実感をもって学ぶためにも、そうしたことも自分で調べるようにしたい。[5]
4. ナショナリズムが強まっている背景[6]は、何なのだろう…　新聞記事にイスラエルの高校生がアウシュヴィッツ・ビルケナウ強制収容所に修学旅行でいくとありましたが、私が行ったときにも、写真のように国旗を掲げながら歩いている集団がいました。聞くと、彼らは数年前までは辛さからこの地を歩くことができなかったが、近年やっと旗を掲げながら歩くことができるようになったのだと、ガイドの方が教えてくれました。「愛国心」、「ナショナリズム」、「心のよりどころ」、さまざまな視点から、このような行動をとらえることができる[7]なと、思った。
5. ホロコーストと聞くと、かつてナチスドイツがユダヤ人に対して行った迫害を意味するのだと、一面的にしか思っていませんでしたが、私が生きる今の時代にも、これに類似したものが存在するのだ[8]と、今日の講義で考えさせられました。また、歴史教育[9]の意

---

[4] 収容所内部の労働に関しても、いろいろな文献に情報が載っています。やはり、技術や専門知識を持つ人は、ドイツ側の「役に立ち」、有利だったと言えます。
　ということは、逆に言えば、単純労働・肉体労働などしかできない場合、次々と送り込まれてくるユダヤ人がいるので、劣悪な条件で酷使され、「自然淘汰」（これは、「ヴァンゼー会議の議事録にある言葉です」で、短期間のうちに死亡していきました。
[5] まさに、生き延びる条件はなんであったのか、これを調べることも、極めて重要です。興味が湧き、疑問が出てくれば、それは次のステップへの大きな跳躍板となります。前回の感想で出てきたフランクル『それでも人生にイエスと言う』（1946 年の著作ですから、戦争・収容所体験の生々しい時に書かれたもの）に、「収容所では、死刑の判決を下された人間の生命さえも、最後のひとときにいたるまで徹底的に利用されたのです」（翻訳書 5 ページ）とあります。
[6] 「強まっている背景」は、ヨーロッパでは難民問題、大量の難民がどっと押し寄せていることに対する不安が極めて大きな背景でしょう。それが引き起こすと思われるさまざまの問題（治安の悪化？国の財政の悪化？自分たちの得る国家からの援助・保障の削減？路労働市場の悪化？）。中東、北アフリカ、アフガニスタンその他における長期的紛争が、その背景ですね。これらの難問を、一つ一つ解決していくしかないでしょう。「背景」となる問題の直視と可能な対処の手段・方法を見つけていくこと、そのために、すでに世界中の人々が行動を起こしていることも事実ですね。「国境なき医師団」、「ユニセフ募金」とその送付、青年海外協力隊の活動、その他たくさんの事例があります。しかし、また、われわれはン本の政府がどのような支援を行っているのか、そして、日本の政府にどのような支援をもとめていくのか、といったことも、重要になるでしょう。税金は、国民がふたんしているのですから、その使い道を、この難民問題でも、注意する必要があります。
[7] 新聞記事では、このような行動に批判的な見解も紹介されていました。日本の皆さんのような学生さんがアウシュヴィッツ、その郊外のビルケナウの強制収容所を見て学ぼうとする意識・問題感覚とはどのように違うのか、これまた、検討の必要がありそうです。
[8] 現代では、ホロコーストをジェノサイド（皆殺し）の一つととらえる見方が、大きくなっています。すなわち、例えば、カンボジアのポルポト政権による 200 万人もの虐殺、

義と、その在り方は、戦争を経験していない世代の方が多くなった現代だからこそ、問うていくべきものだと思いました。過去を知り、そしてどうするのか、自分自身も改めて考えたいです。

6. ユダヤという人種（と定義して良いのかわからない[10]が）は、マイノリティーではあるが、ヨーロッパの全土としてみれば、それなりに人数はおり[11]、また、金融を握っていたから[12]、WWI で負けたドイツ人としては、金を返す、経済をよくするためにも、虐殺という考えに至った[13]のかもしれないと考えた。・・・
7. 科学やテクノロジーが人間の生活全般に貫かれ、合理化が行われてきた一つの極点がホロコーストであるという話[14]を聞いたことがあります。今現在にもとても近くにある危機なのだと感じます。今のシオニズムを見てみると、ナチスの犯罪の本質についての理解がユダヤ人の人たちにとってもかなり浅い[15]のではないかと思います。…

---

[9] 歴史を研究することの意味・重要性の確認ですね。問題を発見し、いろいろと調べ、総括論文を書く、このプロセス全体が、研究です。

[10] まさにそのとおり。ユダヤ人を人種と定義したのは、ナチスであり、また、人種主義的にものをごと見る人々の見方であり定義です。ユダヤ人とは何なのか、これをどう定義するのか、そのためにはユダヤ人がどのような歴史を歩んできたのか、これを調べる・研究してみる必要があります。

[11] ヴァンゼー会議の議事録で確認できますが、1942 年 1 月の時点で、ヨーロッパには約 1100 万人のユダヤ人がいたという統計があります。しかし、テキストの 18－19 ページの地図（ユダヤ人の割合を示す地図）が示すように、地域・国によって、%が違います。

[12] この知識は、どこで得た知識でしょうか？「ユダヤ人が金融を握っていた」というのは、どういう意味でしょうか？「ユダヤ人が金融を握っていた」という定式化は、まさにナチスなど反ユダヤ主義の人々が喧伝した主張です。それが、事実に合致しているかどうか、これまた検討が必要です。日本や中国でも、「ユダヤ人が金融を握っている」といわれたでしょうか？

[13] 「ドイツ人としては」とありますが、ナチスは、ドイツ人とは同じではありませんね。ドイツ人の中の一部がナチスです。ナチスは小さな政党から大きな政党になり、政権を掌握し、次第にドイツ人のなかで大きな影響力を握っていきますが、しかし、ナチス＝ドイツではありません。このあたりも、注意が必要です。ドイツ人の中のどのような人々は、「金を返す、経済をよくする」と称して、虐殺という考えに至ったのでしょうか？

　虐殺が始まるのは、戦争が始まってから、特に独ソ戦の時期からです。そのときは、「金を返す」ことや「経済をよくする」ことが重大問題ではなく、戦争に勝つことが最大の問題になっていました。「虐殺」がどのような場で、どのように行われるのか、その要因にはどのようなものがあるのか、テキストを読み、史料を検討して、考えて行きましょう。

[14] 現在の科学・技術の発達、合理化のものすごい進展は、二つの世界大戦の時期とは比較にならないものがあります。航空宇宙関係の科学・技術、コンピューターなどの技術は、すべていったん戦争が始まれば、殺戮の武器になります。原爆の開発、核兵器競争の歴史がそのいい例です。核兵器を持った国々が戦争を始めれば、地球が破滅するのは明らか絵です。その意味では、現在は、第二次大戦の時期よりはるかに危険は大きいといえます。核兵器は、まさに「皆殺し（ジェノサイド）」の武器です。核兵器全面禁止こそ、人類が目指すべき課題です。さて、どうしたらいいか。これが、われわれ一人一人に問われています。

[15] シオニズムが、ユダヤ人ナショナリズムとして、パレスチナの人々を抑圧する体制とな

8. 新聞記事に関して。ホロコースト教育は、視点によっては、愛国心を強める効果を生み出すことを初めて知った。イスラエルの場合は、“見せること”によって、同法の過去を知り、現在イスラエルとしてある存在を理解し、国家への貢献を高める目的なのだと知った。
   日本もまた歴史教育に関して機論至っていると改めて思った。日本は、“隠すこと”によって[16]日本の良い歩みのみ理解し、愛国心を強めていくような狙いがあるのではないかと思った。
9. …ホロコーストは、WWII が終わり 70y 年経った今、形を変えて世界の中、身近な所に存在[17]してきているように、私は感じています。人々の心がナショナリズムに流される背景に何があるか、…知りたい[18]。

っている点、紛争地域にユダヤ人入植者を増やしている問題（植民地域拡大による領土の確保）は深刻な問題を抱えていますね。パレスチナの国家とユダヤ人の国家、二つの国家の平和共存こそ目指すべき方向性ではないでしょうか？ノーベル平和賞をもらったペレス大統領（元、そして先日漏水により死去）は、アラファト議長と一緒に、この平和の枠組みを構築していくことで、平和賞を与えられたのでした。しかし、・・・・

[16] まさに、その通りですね。日本が明治維新以降、清国と戦争をして台湾を手に入れ、さらに朝鮮半島に勢力を拡大し、ついで、ロシア南下政策と衝突し、日露戦争を行い、さらに、第一次大戦では日英同盟に基づき対ドイツ戦争を行い、さらに中国への「21 か条要求」を突きつけるといった具体に、膨張の道を歩み続け、ついには米英オランダ・フランスなどとの戦争に突入したわけで、その歴史を直視することが必要ですが、なんとか、そうした「マイナス」面は、“隠そう”としています。しかし、これは、被害にあった人々からは決して許されることではないですね。

[17] ホロコーストを成り立たせる要因には、今回のテキストで学んでいくように、多様なものがあります。あなたは、ホロコーストをどのようなものととらえていますか。600 万にも登る大量虐殺ということからすると、少なくとも、その現象は見られません。しかし、ホロコーストを成り立たせている人種主義・民族主義・排外主義といった諸要因をみると、それはまさに今日、世界のさまざまなところで、噴出しています。

[18] まさに、そのことこそ、テキストを素材にしながら、考えて行くことですね。